

# 化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後期

科目No.	357	科目名	社会技術革新学特論12		サブネーム	現代企業経営論 2		
連携機関名	ディレクトフォース	レベル	中級		講義枠	月曜日	講義時間	18:30~20:00
科目概要	前期においては、社会(ニーズ)の変化を把握し(マーケティング)、自社の技術(シーズ)開発へ如何に結びつけるかを具体的なケースで学習した。後期では、そのターゲットを経営活動(モノづくり)のステップ毎にどうやって実現してゆかかを各企業の具体的なケースで学ぶ。							

サブタイトル	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
企業成長の鍵－研究開発	1	化学産業における研究開発	日本の自動車産業、IT産業等の発展を脇役として支えているのが化学産業である。新規材料の開発(例として炭素繊維の開発・市場化)及び既存材料の改善・原価低減(例としてポリエステル原料テレフタル酸の生産技術革新)という二大課題への取組みを紹介する。	10月1日	共通講義棟 1号館 102	浅野応孝	三菱化学 元専務
	2			10月15日			
	3	自動車産業における研究開発	自動車そのものには、当然ながら危険が一杯である。快適性と安全性、安全性と経済性等、矛盾する課題を解決しながら、新車を開発する難しさと喜びを具体例で説明する。	10月22日		三宅健作	三菱自動車 元取締役
	4			10月29日			
ベンチャービジネス	5	ベンチャーの起業と成否をわけるもの	かつてアメリカ経済を再活性化させたものの一つとして、ベンチャービジネスがある。日本においても、その育成強化が不可欠とされているが、その現状はどうであろうか。技術と市場のミスマッチ、資金の不足等でいわゆる「死の谷」を越えられぬものも多い。具体例を挙げながら起業から公開(成功した場合には)までのリスク回避策を論じる。	11月5日		高井俊成	日本長期信用銀行 元常務執行役員
	6			11月12日			
知財戦略(1)	7	技術移転	日本の企業からは数多くの技術移転がなされているが、その交渉から実施、フォローの各段階では極めて大きいリスクが潜在している。中国宝山製鉄所への技術移転の経緯を紹介しつつ、これを通じて学んだものを説明する。	11月19日		梅津善徳	新日鉄 元中国協力本部
	8			11月26日			
海外進出と設備建設のリスク	9	海外進出	コスト削減、事業拡大などの目的で海外進出は不可避であるが、様々の予期しなかったトラブルが発生する。対応策を実際のケースで学習する。	12月3日		合田隆年	宇部興産 元専務
	10	設備建設(ケーススタディ)	買収したスペイン企業(現法)において、彼らにとっては初めての化学品の設備を建設したが、種々のトラブルが発生しスタートが大幅遅延した。その原因分析から今後のリスクマネジメントのあり方について論じる。	12月10日			
競争力・基盤強化	11	原価低減	グローバル化する事業展開の中では、現有中核製品の基盤強化のためにあらゆる努力がなされている。生産管理、品質管理、原価低減等をIE、VAを切り口として具体的に説明する。	12月17日		高瀬親史	日立化成 元執行役員
	12			1月7日			
知財戦略(2)	13	技術経営と特許戦略	新規の事業化には、「研究→開発→事業化→産業化」という4つのステージがある。それぞれのステージにおける戦略思考の重要性、特許戦略を並行して機能させるための仕組み等を、具体例を交えながら説明する。	1月21日		延末憲三	山形大学客員教授 JSR 元常務取締役
	14			1月28日			
事業再生	15	ケーススタディ	不幸にして経営破綻を招来した企業を再生するには、どうすればよいか。コアとノンコアの選別から始まる再生のステップを具体例を挙げながら説明する。	2月4日		近藤勝重	ダイエーホールディング 元社長

2007/9/7 高瀬講師の名前の間違い訂正。 2007/9/14教室の決定。 2007/9/21 講義No.5,6と13,14の日程入れ替え。